

第23期第2回理事会議事録

日時 昭和59年10月24日(木) 17:30~19:45

場所 福岡市中央区渡辺通り 電気ビル内会議室

出席者 山元, 松本, 田宮, 土屋, 杉村, 花房, 松野,
竹内, 浅井, 能登, 河村, 菊地, 近藤, 中島,
廣田, 瓜生, 立平, 元田, 石島(以上理事),
丸山(監事)

議事

1. 昭和60年度予算(案)について

前回の常任理事会の方針にもとづき, 次のような骨子の方針について審議した。

(1) 財源の増は約600万円

60年度からの会費値上げ分と支出減を合わせた増の概算額であるが, 会員の動向等により多少変動がある。

(2) これを第22期59年度総会の事業計画方針の実行に当てることとした。

ア. 機関誌の充実。

イ. 支部活動の強化20%アップ。

ウ. 国際学術研究交流基金。

エ. 予備費の増額。

オ. 事務局体制の充実。

カ. その他(退職金積立, 選挙準備金, ベースアップ)。

審議の結果, 大筋について了承し, 引き続き常任理事会で検討を加えることとし, 意見があったら常任理事会に提出する。

なお, さらに事業計画実行の充実を図るため, 全理事が会員の増加に努める。

2. 日本学術会議会員候補者の選定および推薦人の指名について

当学会に日本学術会議会員候補者の選考および推薦人の指名のための推薦委員会を設置する案ならびに天気に掲載する会員から推薦委員会の選考の対象者を推薦してもらうための告示案および理事会からの説明文書案について審議し, 次のことを承認した。

(1) 天気掲載告示案等については, 案文を簡明化のうえ, 11月号の天気に掲載告示する。案文の修正は天気編集委員長と庶務担当理事に一任する。

(2) 日本気象学会推薦委員会の設置案については,
ア. 同委員会の設置についての基本的なことを承認し, その具体化について同委員会にゆだねる。

イ. 同委員会の構成メンバーは現理事長, 前理事長, 現日本学術会員, 気象研究所長, 担当常任理事(浅井理事)の5名とし, 追加する必要がある場合は常任理事の承認のうえ指名する。

ウ. 同委員会での日本学術会議会員候補者の選考および同会議推薦人の指名の決定について, 常任理事会に報告するとの原案を理事長に報告することに修正する。

3. 国際学術研究交流について

来年の中国代表団訪日という当面の問題および国際学術研究交流委員会の報告事項について検討した結果, 次のようにすることにした。

(1) 中国代表団の訪日は, 大阪での秋季大会の期日に合わせてもらう。歓迎のための諸行事, 経費等については, 今後, 国際学術交流委員会の案にもとづき常任理事会で検討する。

(2) 国際学術研究交流基金等については, 引き続き同委員会で検討することとし, 具体化のための方針等について, あらためて理事長から同委員長に伝える。

4. その他

(1) 昭和60年度秋季大会の日程について

来年, 大阪での秋季大会は次のとおり決まった。
昭和60年10月29日(火)~31日(木)

なお, この日程は中国代表団の訪日に関係して延長等はない。

(2) 気候変動研究集会報告書の当学会での斡旋販売について常任理事会に一任された。

昭和59年度奨励金贈呈式等について

日時 昭和59年10月25日(金) 13:00~13:30

場所 福岡市中央区渡辺通り 電気ビル内会議室

次第

1. 理事長就任挨拶

大会委員長司会のもとに、山元龍三郎理事長から就任の挨拶を兼ね、学会運営の当面の問題について、概要次のような挨拶があった。

(1) 理事会体制の強化について

実務担当理事および各委員会のほかに、総合計画担当理事(浅井理事)および財務計画担当理事(河村理事)を置いて、それぞれ重要な問題について担当するよう、若干の強化を図った。

(2) 学会の運営の方針について

ア. 機関誌(天気, 集誌)の増ページと内容の充実を図る。

イ. 支部交付金を増額し、支部活動の充実を図る。

ウ. 国際学術研究交流のための基金を設立して、若年研究員の国際シンポジウムへの参加旅費の補助等を行うなど国際交流の一層の拡充を図る。

エ. 事務機械化によって、学会事務局体制の強化を図る。

(3) 日本学術会議会員候補者の選出および推薦人の指名について

当学会に推薦委員会を設け、同会議会員候補者の選考および推薦人の指名を行う。これらのごとについては11月号の天気に掲載、当学会会員からの候補者の推薦を願うよう告示する。

(4) 中国気象学会との交流について

中国側の招待で10月5日から19日まで、訪中代表团(7名)が気象局、大学、大気物理研究所等を訪問した。

来年は中国代表团(7, 8名)を大阪での秋季大会に合わせて招く予定である。

(5) WMO 主催数値予報シンポジウムについて

1986年に気象庁の共催によってシンポジウムが開かれる。これに対して当学会は国際交流の一環として、後援をすることとしている。

(6) IAMAP 総会の日本での開催について

1985年ハワイで総会があるが、この席上次期開催地が審議される。日本での開催が話題となっている。これに対処するのは日本学術会議第4部会気象分科会(気象学研究連絡委員会)があたるが、当学会も協力しなくてはならない。

2. 昭和59年度日本気象学会奨励金贈呈式

奨励金受領選考会委員長の経過報告および選定理由の説明があって、理事長から次の会員に賞状と奨励金が贈呈された。

(1) 平 隆介会員(福岡管区気象台)

降水短時間予報の基礎技術開発の研究

(2) 加藤敏彦会員(三宅島測候所)(代理受領)

伊豆諸島付近のシャワーラインの解析と予測法の研究

(3) 柴山元彦(大阪教育大学付属高等学校)

地域気象教材の開発一特に都市を中心としての研究

3. 昭和59年度気象学会賞受賞記念講演

受賞者山田哲二会員(米国 Los Alamos National Laboratory)による「複雑な地形上の夜間下降流と拡散に関する研究」について講演があった。